

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

観測報告 No.1778 近畿圏大型地殻地震推定前兆 続報
第5ステージ 4/29極大認識 CH23-BT=No.1778 第5ステージ前兆認識

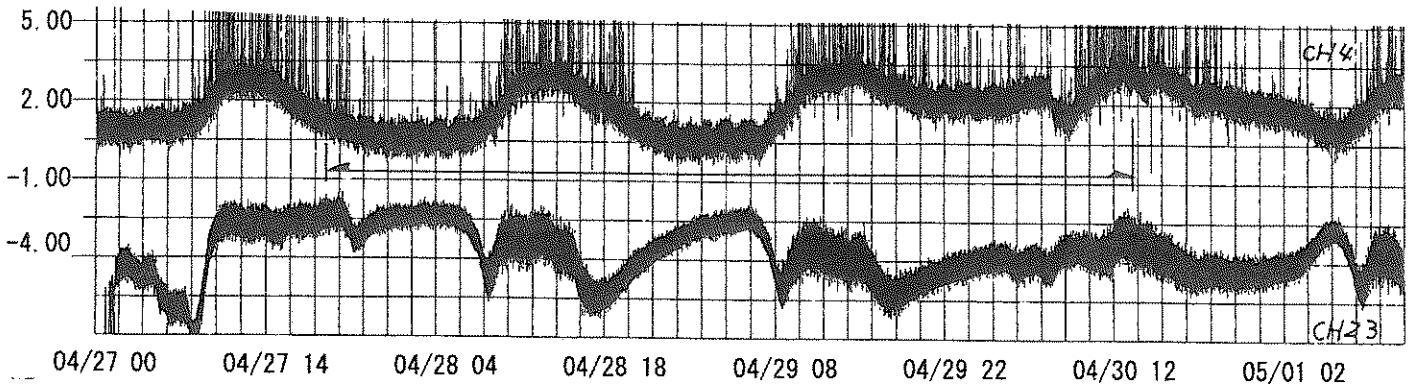


図-1) CH4 振動型BF前兆=No.2317B と CH23基線幅増大BT との関係 CH23BTはCH4-振動型BF (上図矢印期間) とは無関係

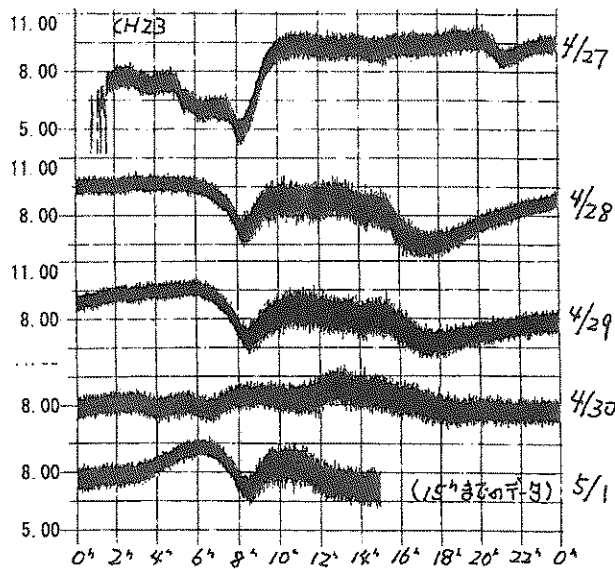


図-2) CH23基線幅増大BT 日々出現状況 (実際の基線)

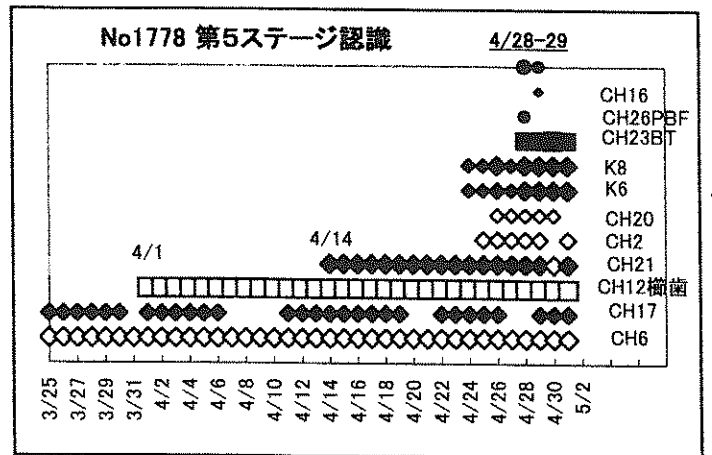


図-3) No.1778前兆 第5ステージ認識前兆 4/28-29 極大認識 最も早い場合の関係認識例 (可能性のひとつ)

No.1778長期継続特殊前兆の続報です。

No.1778前兆は、2012年05月から第4ステージとなり、第4ステージ前兆から、本年4/29±が示されました。既に報告のとおり、4/29中心に極大認識できる前兆変化が認められ、現状、No.1778前兆は前代未聞(観測歴上初)の第5ステージに突入した可能性が認識されます。

前観測情報で、4/28から明確に出現しだしたハヶ岳のCH23観測装置の基線幅増大BT前兆について、CH4-CH7 同期振動型BF=No.2317B前兆との関連の可能性を記しました。しかし、上図-1)波形のとおり、CH4 振動型BFが終息してもCH23-BTは継続出現していることから、CH4 振動型BF=No.2317B 前兆とCH23-BTは関係が無いことが確認されました。またCH23-BTの出現開始時刻が朝08時半±、終息時刻が夕刻18時半±が認識でき、No.1778前兆の過去に出現したBTの日々変化から推定される、地震発生推定時刻=朝09時半± 又は夕刻06時半±と同じであることから、CH23の基線幅増大BTは、No.1778関連前兆、第5ステージ前兆で

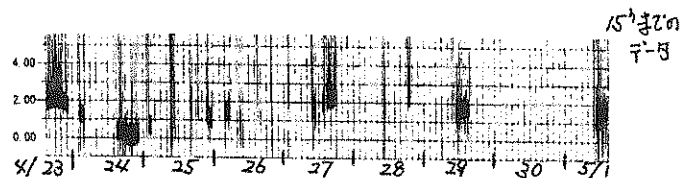


図-4) 高知観測点K6/K8 同期特異状態 (K8基線のみ表示) (今後特異状態出現継続時間が減少すの可能性有) (本日までに関係特異継続時間計=147時間)

あると認識されます。図-2)のCH23-BTの出現の様子を見ますと、4/28から明確に出現開始、日々08h~18h 時間帯に基線幅増大が出現していますが、4/30は顕著ではありませんが、一日中通常基線より太い状態が継続しました。これは小ピーク認識できる状態です。(続きは次頁へ)

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

観測報告 No1778 近畿圏大型地殻地震推定前兆 続報
第5ステージ 4/29極大認識 CH23-BT=No1778 第5ステージ前兆認識

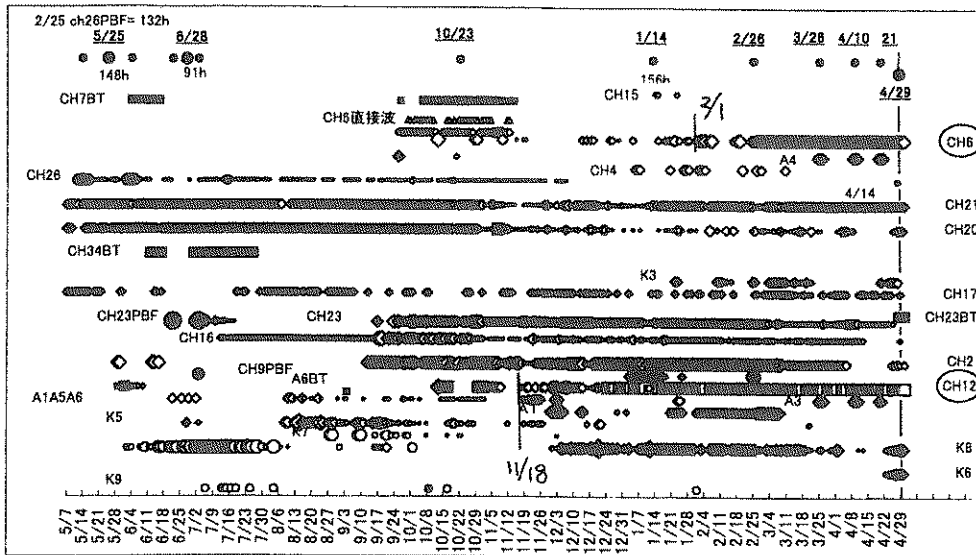
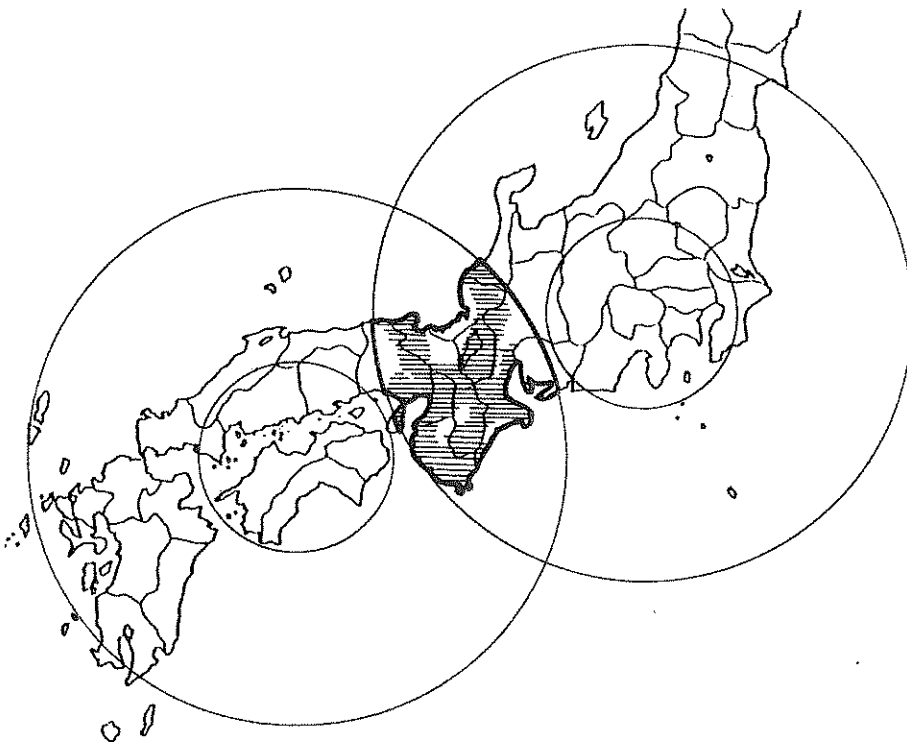


図-5) No1778前兆 第4ステージ前兆から第5ステージ前兆へ



(前頁から続く)

CH23-BT に小ピーク認識ができる変化が認められること、本日も明確に継続出現していること等から、極大時期から発生近くまで継続出現するタイプの基線幅増大BT-2の可能性が示唆されます。

仮にその場合は、小ピーク認識できる間隔に周期性が認められ、周期性に合わない小ピーク日に平均周期の6倍値又は9倍値を加算すると、発生日±3となる経験則が使用できる可能性もあります。

第5ステージ前兆はまだまったばかりですが、今後、次々と極大が出現する可能性も否定はできませんが、第4ステージ時期から4/29第5ステージ極大に対する前兆初現や先行特異が認識できないか検討してみました。

前頁の図-3) の場合は、CH12歯前兆に変化が変化が認められた4/1を先行特異初現、CH21が完全糸状態となりたした4/14を前兆初現と仮定しますと、どちらからも今月下旬の5/27±が計算できます。

また長い場合は、上図-5) のCH12前兆が継続出現したした2012.11/18を先行特異初現、CH6 特異が顕著に出現したした本年 2/1を前兆初現と仮定しますと、どちらからも本年10/7±が計算できます。今後の変化を観測する必要がありますが、現状からは、早い場合=5/27±、長い場合=10/7±の可能性も示唆されることを報告させて戴きます。

現在の第5ステージ前兆極大時期に観測されている前兆の影響局は下記のとおりです。伊豆局、新居浜局、飯田局が多数ですが、PBF 波形で局認識できるCH26=新居浜と影響局がひとつのK8=三峠のみが確実です。左図はこの二局からの推定域。他の局もほぼ同じ領域を示します。斜線域は歪み速度の遅い、参考領域。No1778推定域と調和。

CH06	伊豆・新居浜	CH02	伊豆・新居浜
CH26	伊豆・新居浜	CH12	飯田・新島
CH21	飯田・新島	CH16	飯田・新島
CH20	飯田・日和佐	K6	伊豆・新居浜
CH17	伊豆・新居浜	K8	三峠 全100w